



パフォーマンス・コーチへの 道のり

4つの神話を払拭する

マーチン・ブラックマン



ブラックマンは、ジュニア時代に伝説的なコーチであるニック・ボロテリー氏のもとでトレーニングを受けたのを皮切りに、コーチとしても選手としても多彩で幅広い経歴を持つ。スタンフォード大学では2度のNCAA(全米大学選手権)優勝に貢献。1989年から1995年までATPプレーヤーとして活躍し、自己最高位の158位を記録。

1998年、28歳の若さでアメリカン大学の男子チームのヘッドコーチに就任し、コーチとしてのキャリアをスタート。2004年には、メリーランド州カレッジパークにあるジュニア・テニス・チャンピオンズ・センター(JTCC)のテニスディレクターに就任。そこでの4年間で、ブラックマンと彼のチームは、非営利の“テニス&メンタリングプログラム”の生徒数を20人から80人に増やし、JTCCを全米で最も優れたジュニア育成プログラムの一つとして確立させ、その後、JTCCは初の「USTA地域トレーニングセンター」となる。ブラックマンは2008年にUSTAに勤め始め、“人材発掘・育成部門”のシニアディレクターを務める。ここでは、USTAの各セクションや民間企業と協力しながら、全米17の地区で地区のキャンプや地域のキャンプのネットワークを構築。ブラックマンは、2011年末にUSTAを退職後、フロリダ州ボカ・ラトンに自身のテニスアカデミー「ブラックマン・テニス・アカデミー」を設立。フルタイムでプログラムを開始してわずか2年目にして、アカデミー卒業生8人全員をテニス奨学金で大学に送り出した。

2015年6月、USTA選手育成部門のゼネラル・マネージャーに就任。アメリカのテニス界と連携して、世界に通用する次世代のアメリカ人選手を発掘・育成する役割を担っており、USTAの選手育成スタッフと指導者教育チーム(USTAU)の両方を統括しています。

妻と4人の子供と共に、フロリダ州レイク・ノナに在住。

【翻訳・監修】 鈴木真一 <PTR JAPAN代表 / PTRインターナショナル・マスタープロフェッショナル / インターナショナル・クリニシャン>

今回は2回に分けて、アメリカでパフォーマンスコーチを目指す多くの意欲的なコーチたちのために、どのような道筋になるのか具体的な例を挙げながら、役に立つような情報を紹介したいと思います。この記事の第1部では、一般的に知られているいくつかの神話を否定します。「テニスプロ」の次号に掲載する第2部では、いくつかの明確な質問をし、優れたパフォーマンスコーチになるための旅に出た若いコーチのための指針となる哲学的原則を示す予定です。

では、まず、4つの神話を解き明かしたいと思います。

神話-1

【優れたコーチになるためには、優れたプレーヤーでなければならない】

優れた選手や偉大な選手であることが、コーチを目指す人にとって、コーチングの道を歩み始める際に有利であることは間違いありません。高いレベルで戦ってきた彼らは、テクニック、戦術、動きの基本を理解していますし、ハイレベルな試合を通じて貴重な経験もしています。

多くの場合、大学を卒業したばかりの選手やツアーに出ていないプロの選手は、お金を稼ぐ必要がありますが、彼らは高いレベルでプレーできるので、すぐに顧客を作ることができます。顧客たちは、彼らのプレーレベルから判断して、若くてもティーチングやコーチングの能力があると考えられるのです。

高いレベルで戦ったことのないコーチでも、テニスについて良く勉強すれば、素晴らしいパフォーマンスのコーチになることができます。そのためには、より多くの時間をかけてビデオを見たり、プロのゲームでのパフォーマンスの特徴について学んだりして、それらをもとにして、成長と発達に応じてどのように指導すべきかを理解する必要がありますかもしれません。

長期的な成長と発達の原則を学び(推薦図書のADMを参照)、育成のためのフレームワークを作っておくこと(推薦図書の"USTA Teaching & Coaching Philosophy"を参照)を心がけてください。

パフォーマンスコーチである助言者を見つけることも必要でしょうし、高いレベルでプレーできないからといって怖気づくことなく、コート上で指揮をとって選手たちに伝える自分自身の情報を持つようにしましょう。

高いレベルでプレーしていた人たちも、同様です。育成とコーチングの原則を包括的に理解することで、自分のプレー経験をより効果的に活かして、指導をする選手たちに違った形で適切に伝えることができます。

大学やプロの選手としては優秀ではなかったけれども、教えることや、指導することや、コーチするために必要な知識と能力を身につけた素晴らしいコーチを、私は毎日現場で目にしています。彼らに共通しているのは、相手のことをどれだけ気にかけているかを伝えることができるということです。

神話-2

【育成コーチやパフォーマンス・コーチの方が、初心者指導やレクリエーション型のコーチよりも知識が豊富で、スキルが高く、価値がある】

プライベートレッスンや少人数制のクリニックで初心者に教えたことがある人は、環境を整えて、学習効果を上げつつ、楽しんでもらえるようにすることがどれほど難しいかを知っています。

初心者レベル、特に12歳以下の子どもたちの指導で活躍している素晴らしい指導者たちには、彼らが新しいプレーヤーを惹きつけ、維持し、彼らが「テニスをする」ところまで持っていくのに必要な熟練度、忍耐力、創造性に対して、私は最大の敬意と称賛と感謝を捧げます。

私の選手育成での役割において、地区組織や民間企業と協力してトップ10プレーヤーやグランドスラムチャンピオンを育成するという私たちの使命は、新しいプレーヤー(若い人から大人まで)を刺激し、育て、維持するコーチたちの素晴らしい献身的な仕事にかかっているということを認識しています。グラスルーツ、入門、一般、ユース、NJTLのコーチの皆さん、ありがとうございます。

神話-3

【コーチングはティーチングよりも難しい】

セレナ、ハレプ、バーティ、ケニン、フェデラー、ナダル、ジョコビッチなどのベスト中のベストプレーヤーを見ると、彼らの試合をテレビで見られるようになるまでに、いかに大変な育成指導があったのかが推察できます。私たちは、水面上に見える氷山の一角を見ていて、多くの場合、彼らが8歳から16歳までの間に行われた、技術、動き、戦術の基礎を教える作業や、最も重要な、競争力のあるタフネス、成長のための考え方、ゲームへの愛情を育むための指導についてはわかりません。

ティーチングとコーチングは連続しています。すべてのティーチャーはコーチングをしなければならず、すべてのコーチはティーチングをしなければなりません。しかし、選手席に座っているコーチたちは、偉大なジュニアの指導者たちが築いた基礎のおかげで存在しているのです。

神話-4

【女性は少年や男性をコーチすることはできない】

2020年になってもこの問題に取り組みなければならないのは残念なことですが、現実ではあります。ありがたいことにビリー・ジーン・キング、ジュディ・マレー、アメリー・マウレスモ、コンチータ・マルティネスなど、多くの素晴らしい女性コーチがいます。しかし、私たちのスポーツは、女性が最高レベルの少年や男性をうまく指導できるという単純な事実をまだ完全には受け入れていません。

選手育成担当の責任者として、私は偉大なコーチたちから学ぶ機会に恵まれました。ビリー・ジーン・キング、クリス・エバート、メアリー・ジョー・フェルナンデス、キャシー・リナルディ、アン・パンクハーストといった、ゲームのあらゆる側面を理解し、男女を問わず最高のレベルのコーチングができる女性たちです。

この記事を読んでいる意欲的な若いコーチ(特に女性)の皆さん、スポーツ界や業界の偏見に惑わされずに、素晴らしいコーチになるための道を歩んでください。私たちはより多くの女性育成・パフォーマンスコーチを必要としています。

あなたの才能とスキル、そしてリーダーシップがあつてこそ、アメリカのハイパフォーマンス・テニスの目標を達成で続編は、『テニスプロ』の3/4月号に掲載されます。